



たわわに実ったぶどうを収穫しました

町立第3保育所で8月20日、園庭に実を結んだぶどう(キャンベルと巨峰)の収穫が行われました。収穫にあたったのは園児たち29人。ぶどうに精一杯手を伸ばし、一房ずつ収穫していききました。

このぶどうは植えられてから今年で10年目。北向在住の森上伸明さん家族が園児たちのために毎年、剪定や間引き、消毒といった手入れを行ってきました。

クラスや病気からぶどうを守るためにネットや袋を使用するなどし、立派に実りました。植木野清美園長は「森上さんのおかげで、子どもたちは収穫の喜びを体験できます。子どもたちも自然に囲まれて幸せだなと思います」と話しました。

近づくだけで甘い香りがするぶどうはコンテナ2個分の収穫となり、園児たちも満面の笑みでした。

園庭から甘〜い香り？

町立第3保育所でぶどう狩り

実験に興味しんしん

町立第1保育所で「水のお話会」

町立第1保育所で9月6日、水に対する関心を高める「水のお話会」が行われ、年長の子もたち30人が水の大切さについて学習しました。

お話会では講師の県環境立県推進課職員の城ヶ峰徹也さんが、スクリーンに登場した「くまモン」と一緒に、水はどこから来るのかなどクイズ形式で進行し、イメージ画像を交えながら説明しました。地下水の話で、城ヶ峰さんがペットボトルの手作りろ過装置を使って泥水をろ過する実験を行うと子どもたちから歓声があがり、きれいになった水を興味深く見つめていました。

谷川淳子園長は「わかりやすい説明で、水の大切さが子どもたちに伝わった」と話しました。



泥水がきれいな水になった！



新品の車いすが贈られました

アルミ缶を集めて…

井関労組青年女性部が車いすを贈呈

9月5日、JAM井関農機労働組合熊本支部青年女性部(代表・野田直茂さん)から9月1日にオープンした「特別養護老人ホームいこいの里」(畑中)に車いす1台が贈られました。

井関労組青年女性部が5年前から始めたこの活動では、井関農機の工場や社員の各家庭から出たアルミ缶を、約1,000kg集め業者に売却。得た基金で車いすを購入し、福祉施設などに贈呈することで社会貢献をしています。

野田さんらが「大切にしていただけたら幸いです」と車いすを手渡し、受け取った施設長の長井一美さんは「ご厚意に感謝します。大事に使わせていただきます」とお礼を述べました。